

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

「Ⅰ人Ⅰ台端末を活用した授業改善」のⅠ年次である今年度は、令和５年度から続く「主体的に学ぶ児童の育成」という研究主題はそのままに、ICT 機器の利活用場面や指導法の構築等に試行錯誤を繰り返し、少しでも児童の学びが広がるよう、また深まるよう研究を積み重ねてきた。今年度行った授業研究会や職員研修、日々の実践を通して見えてきた成果と課題について振り返る。

【以後、成果を（○）、課題を（▲）で取り上げる。】

（１）授業づくりに関すること

- めあてのもたせ方や一人調べ、話し合い活動、まとめ方など、学習の流れと ICT 機器の活用の例を『東脊振スタイル』として作成し、学校全体で取り組むことができた。
- 話し合い活動や中間評価、適用問題などを日常的に授業に組み込み、児童の学びが深まるような本時の計画や単元設定を行うことができた。
- 授業に使いそうなアプリや教材、機能を共有し、いろいろな場面で使用することができた。これにより、児童の学びが自由に広がったり互いに深め合ったりして、主体的な学びが展開される様子が見られた。
- ▲ 『東脊振スタイル』は、教科や扱う単元などによって画一的な実施が難しいところがある。児童の学びがより深まるような追加・修正を今後も考えていきたい。
- ▲ 教師主導で進めるべき部分と児童の主体性に任せるべき部分の見極めについて、教科や教材、児童の実態等によっても繊細に変わってくるところなので、授業を組み立てていく上での視点として磨き続けていきたい。
- ▲ アプリの種類や使用機器の選択など、行う教科や単元、学習の形態等によって ICT 機器を使った学習の最適さが変わってくる。紙とデジタル、双方の良さを生かしながら、様々な教科の授業において ICT 機器を活用する場면을模索していきたい。
- ▲ Ⅰ人Ⅰ台端末を情報の記録や整理、教材配付としてなどの活用はできているが、子供たち同士の協同的な学びにおいてより活用ができるよう、今後も研鑽を積んでいきたい。
- ▲ 学級で一斉にアプリケーションを使うと不具合を起こすケースがしばしば見受けられた。容量があまり大きくないはずのデジタル教科書に付属しているスクラッチ教材でも不具合が起こるため、誰Ⅰ人も不具合等で学習の滞りが起こらないような環境整備等を行っていただきたいと考える。

（２）「スキルタイム」に関すること

- 火曜日および木曜日の内容と時間を統一し、できるだけ言葉掛けを減らしたことで、全校で足並みを揃えて、テンポよく朝の時間に活動を行うことができ、児童の集中力を高めることができた。
- 音読が暗唱できるようになったり、100 マス計算の記録が伸びたりしたことで、児童は自信をもつことができ、意欲的に活動することができた。
- Ⅰ人Ⅰ台端末を活用したタイピングを行ったことで、児童は意欲を高く保った状態でスキルタイムに取り組むことができた。また、ローマ字入力にも慣れ親しむことができた。
- ▲ 実施の仕方について、学級ごとに差異が生じる場面があった。「音読→100 マス→漢字」「音読→100 マス→タイピング」の実施方法や実施時間など、より足並みを揃えて行う方法を探っていきたい。
- ▲ 漢字やタイピングは普段の実施から正誤の判定があるが、100 マス計算ではそれを行っていない。計算の数や時間短縮の記録を伸ばすとともに、正確な計算力を養う手立てを探っていきたい。

(3) その他に関すること

- ICT 担当より「GIGA 通信」を発行し、コンテンツの紹介やタブレット学習のメリットなど、授業の中で ICT 機器を活用する機会を見出すきっかけづくりを行うことができた。
- 「タブレット活用のルール」を制定し、タブレット使用の目的や使い方についての指導を行うとともに、個人情報の取り扱いや画像・動画の撮影等、情報リテラシーについての指導範囲を明確にし、全校児童や全職員、家庭との間で共有することができた。
- 低中高学年ごとに、基本的な操作やアプリの操作に関することなど、本校独自の端末スキル系統表を作成することができた。これを職員で確実に共有し、活用していくことで、児童のスキルアップを図ってきたい。